2012年 1月のアンガージュマンの予定

利用は会員となり、フリースペース、キックオフプロジェクト、相談・コーディネート、学習サポート等をお選び下さい。まずは電話などでお問い合わせ下さい。見学も大歓迎！

月(Mon)	火(Tue)	水(Wed)	木(Thu)	金(Fri)	土(Sat)	日(Sun)
毎週金曜日は 会議の為 フリースペースの 利用は 10：00～ となります。	カレンダーの見方 amは10:30～ pmは13:30～ ※は閉室の印ですが 事業により行います	ネクスト番外編 毎週土曜日　13：00～16：00　1回500円 学習スペースの開放を行っています。 それぞれ自分のペースで学習できる場所です。 科学の実験などを行うこともあります☆				1 ※
2 ※	3 ※	4 ※	5 ※	6 ※ ネクスト 模擬試験	7 ※ ネクスト 番外編	8 ※
9 ※	10 am あばうとミーティング 14:00 GO！GO！囲碁 学習サポート	11 12:00 昼食会(300円) 山形物産市 (はるかぜ書店前) 学習サポート	12 am 詩を読もう pm カラオケ(約300円) 学習サポート	13 pm スポーツ 学習サポート	14 ※ ネクスト 番外編	15 ※ 保護者会 14:00～16:00
16 am あばうとミーティング 会議の為 フリースペースは 3:30に閉室です。 学習サポート	17 am 手芸 14:00 GO！GO！囲碁 学習サポート	18 12:00 昼食会(300円) pm 2:00 ボランティア ミーティング pm 乗馬講座 リエゾン団　宅配 学習サポート	19 pm スポーツ 学習サポート	20 am マンガを語ろう pm 1月の お誕生会 学習サポート	21 ※ ネクスト　番外編 横浜市 こども若者支援協議会 フォーラム&フリマ	22 ※ 神奈川県立 青少年センター こどもフェスタ
23 am あばうとミーティング pm 散歩♪ 学習サポート	24 am 絵を描こう 14:00 GO！GO！囲碁 学習サポート	25 12:00 昼食会(300円) pm ♪光あらたに 雲染めて～♪ 学習サポート	26 山形物産市 (はるかぜ書店前) 社会見学（県庁） 学習サポート	27 am 詩を読もう pm カラオケ(約300円) 学習サポート	28 ※ ネクスト 番外編	29 ※
30 am あばうとミーティング 学習サポート	31 am 手芸 14:00 GO！GO！囲碁 学習サポート					

本の注文は
はるかぜ書店へ
雑誌・一般書籍
・専門書など
お取り寄せ致します。
TEL　046-804-7883

1月のボランティア募集

イベント	日付	定員	主な活動内容
・ フリースペース	土日祝日除く	５名	話やゲームの相手、共に過ごす
物産市	1/11, 26	３名	物品販売、陳列、チラシ配布
物産宅配	1/18～20	３名	検品、仕分け、梱包、配達
昼食会	1/11. 18, 25	３名	調理、盛りつけの補助
夜のフリースペース	1/13, 20, 27	５名	ともに過ごす
通信発送作業	1/30	３名	通信の折り、封入、封止め
下校時の防犯	平日 14:40～16:00	２名	町内の巡回、見守り

参加希望の方は801-7881までご連絡下さい。

2012年(平成24年)
1月1日　発行

アンガージュマンとはフランス語で社会参加という意

Le Engagement

Engagement Yokosuka

ＮＰＯ法人アンガージュマン・よこすか
発行所：〒238-0017神奈川県横須賀市上町2-4　電話：046-801-7881
http://engagement.angelicsmile.com/　発行責任者：滝田衛　編集責任者：石井利衣子
http://blog.canpan.info/engagement/(ブログ)　engagement@angelicsmile.com(メール)

第95号

子ども・若者は幸せ？　大人たちは？？

新年明けましておめでとうございます。

・年頭に当たり、子ども若者支援をするNPO法人らしくない発言をしたい。子ども若者は元気に生きていると。学校へ行かない不登校の子どもも、就職に恵まれずにひきこもる若者たちも健気に生きていると。むしろ大人が傷つきお金や人間関係に苦しんでいる。大人が築いた現代社会が疲弊し猛反省をしなくてはいけないにもかかわらず、自らの不安に過剰反応し「学校へ行かない」子どもや「社会に参加しない」若者に逆切れし叱咤激励する。

・一つの指標として自死者を見よう。人口比（１億２千万人）で４０歳以上５５％、３９歳以下４５％。自死者(31,282人　平成22年)は４０歳以上７３％、３９歳以下２７％である。人口比の１０ポイントの開きに対し、自死者では約５０ポイント開いている。確実に若者より４０歳以上の大人が苦しみ孤立している。(39歳を基準としたのは若者支援上限が39歳であるため)

・若者は幸せか？　答えは明白である。大人が不幸だ。確かに経済成長し、家計も豊かになり多様な文化も構築した。しかし失ったものが多い。自戒を込めて述べるが、核家族化で高齢者を追いやり、妻に子どもの教育を任せ育児ノイローゼを、夫は企業戦士として24時間戦い自分勝手に。総体的にうつ病等が増え、虐待や生活保護が増加、労働市場は外国へ移り、恒常的な不登校・ひきこもりの子ども若者が生み出される環境が生まれた。手塩にかけた子どもの生活を豊かにできなかった現実に「財産や年金が子どもに食い尽くされる」と嘆くのである。

・果たして、人権も保障されずに独楽鼠のように働いてきた大人のようになりたくないと、子どもたちは行動しているのである。目の前の不利益は拒否し、楽しく面白いことに熱中する。子ども若者の特権を素直に表現している。生きている現実を謳歌し、限りない命を輝かせている。法人のフリースペースで出会う子ども若者は、実に弾け生き生きしている。家でとじこもり学校で無口だった子ども若者の姿とは明らかに違うのである。課題は不登校やひきこもりの生き方の承認である。学校でも社会でも法的に保証されていないのである。子ども若者の人権を保障できない、この国は未熟で未完成社会と言うほかない。

・もはや居酒屋論議の若者論を展開し(朝日新聞2011年12月14日　古市憲寿氏[絶望の国の幸福な若者達の著者]インタビュー記事参照)、世代を嘆くことではないだろう。大人は反省の弁を語り「生きていること」「命の輝き」を認め、子ども若者に世代交代を委ねることが幸せな社会を構築することではないだろうか。

・今年の本法人は、３月に10回目の就労支援ネットワークフォーラム(ゲスト宮本みち子氏・水谷修氏)を開催し、６月には実行委員会形式で映画「扉の向こう」（不登校ひきこもり）上映を行う予定である。４月から事業は行政連携が充実し、認定NPOを具体化する。一方、困難な財政で施設移転も視野に入れざるを得なく課題山積である。子ども若者にバトンを渡すためにも強力なご支援をお願いし、寄付によるNPO事業確立を実現させていただきたい。ということで、本年もよろしくお願い申し上げます。昇り竜の年に。

（理事長・代表　滝田衛）

あばうと

冬休み前はイベント盛りだくさん！

十二月は冬休みがあるので、いつもよりも開室期間が短いのですが、12月の誕生日会、皆既月食観測会、社会見学に横須賀市役所に行ったり、さらに年末の大掃除とイベントは一杯でした。毎月誕生日の人を祝っているだけあって、さすがにサプライズ感はなくなりましたが、みんなで祝福する誕生日は、祝っている方も幸せな気分になります。因みに今回は元イングランド代表　マイケル・オーウェンと同じ誕生日の方もいました。

皆既月食観測会は、みんなでカレーを食べて城ケ島まで車で行って、寒い中二時間観測。雲の間から月が徐々に欠けていく様子を見ることができたそうです。流れ星も見えたそうです。肝試しもやったとか…。帰ってからは、楽しい楽しいお泊まり会だったとか。市役所では、普段見ることのできない、各部署の仕事ぶりを見ることができて、非常に満足したようです。教育委員会の部署が一番盛り上がったとか…。大掃除は今年は、みんなで素晴らしく一生懸命、はき掃除、拭き掃除、模様替えと頑張ってくれたので正直、ちょっと感動しました。　（助川英一）

はるかぜ＆harucafe

絵本のよみきかせ　物語に触れるひと時を･･･

harucafeでは毎月1回、横須賀市立児童図書館で活動しているけやきの会の川口さん・久保田さんに講師をお願いして、絵本の読み聞かせを行っています。お天気の影響や、幼稚園の帰り時間の関係でお客様が来ない、、、なんてことも過去にはありましたが、講師のお二人が続けて下さったおかげで、近隣の幼稚園に通うお子さんとお母さんを中心に、最近ではカフェのスペースがいっぱいになることも。もちろん、スタッフ、研修生もチラシを配ったり、手作りのポスターを幼稚園に掲示してもらったりと地道にお知らせしてきました。

これも、カフェにたくさんの人が立ち寄ってもらえるようなきっかけ作りに、また、子どもや保護者の方に絵本に親しむことの楽しさを伝えるためにと願ってのことです。講師のお二人は紙芝居やエプロンシアター(ポケットからいろんなものが出てくる仕掛けエプロン)、手遊びなども交えつつ、子どもたちの気持ちを引きつけます。「今度は何かな～」「君はどれが好きなの？」と、やりとりしている間に子どもたちは物語の世界へ自然に入り込んでいきます。たくさんの物語に触れることは、子どもたちの心に豊かな彩りを添えてくれることでしょう。講師のお二人の継続的なご協力にも感謝です！　（石井利衣子）

ネクスト

一人一人に合わせた対応のため、行政とも連携を。

今年度から取り組んでいる横須賀市との委託事業が大変充実してきている。生活保護家庭の学習支援事業だ。不登校の子どもたちを想定して企画したものの、実際には登校している子どもたちが主に利用している。

学校に行っているかそうでないかの別なく、アンガージュマンで学習に取り組む子どもたちは一対一の取り組みが必要とされる。もちろん、集団の中での支援が充実してくれば、我々のような取り組みはいずれ必要とされなくなるのかもしれないが、一人ひとりに合わせたプログラムを組むことが出来るのは私たちの活動の特色といえる。

また、子どもたちの学習をサポートすることで家族関係が改善されるケースも生まれて来ている。フリースペースでの活動同様、子どもたちの学習が満たされることが、家族関係の再構築にも有用であることも特色といえよう。個別での対応を必要とされる子どもたちは例えば、近隣のことばの教室に通室しているケースもある。担当教諭との情報交換も始めており、サポート体制はより一層充実するだろう。

学校や行政やNPOや他のあらゆる機関との連携をしながら、ひとりの子どもに相対する。大人の務めである。　（島田徳隆）

キックオフ

年末年始対応策!?

ひきこもりの人にとって、年末年始は受難の季節。久しぶりに会う親戚一堂が集まれば、話題は決まって現状報告。「今何してるの?」「学校は卒業したんだっけ?　お仕事は?」と答えられない質問攻めにさらされる人も多いでしょう。その上、年の近いいとこが結婚したとか、近所のダレソレちゃんはいい会社に入ったとか、知りたくない情報もいちいち教えてもらえます。お部屋に籠もればそれはそれで、家族の視線の冷たさは普段より倍増、なんてことに･･･。この時期を乗り切るためには笑顔ではっきり「何もしてないんです～」と正直に言い切るのが一番。「そんなことでいいのか!」と説教モードの気配を感じたら、「ですよね～うーん、どうしましょうね～」と自分も困ってるんですアピールでかわしましょう。

新年だから心機一転なんて簡単には行かないけれど、少しでもさわやかな気持ちで新年を迎えられますように。　（石井利衣子）

リエゾン団

「山形物産市」認知度アップへ！

12月のリエゾン団では、先月の事を踏まえて、今後の広報について何が必要なのかを話し合いました。これまでは物産市の開催日の告知や宅配の案内チラシを他店や市内の施設にて置かせて貰う程度でしたが、12月下旬に行った物産市では、今回の目玉商品、他にどの様な商品を扱っていいるのか、価格等を載せたチラシを作成し、配布しました。今までは「おいしい、山形を召し上がれ」というのぼりは立てていたものの「山形物産市」とは出していなかった為、視覚に訴えるべく分かりやすい掲示を作って見ました。今後もこう言った広報活動を継続させられれば「山形物産市」が認知され、定着して行けると考えています。　（石川藍）

ボランティア

人それぞれ…何のためにボランティア？

先月のボランティア・ミーティングは、21日の開催となりました。原稿締切日が16日だったため、今号での報告はお休みとさせていただき、次号にてご報告致します。

さて、当法人の認知度も高まり、ボランティアを希望される方が増えました。様々な動機をもってお越しいただいておりますが、「新たな出会い（人・活動）」、「やりがいを求めて」いる方が多く、特に学生さんでは「人としての幅や視野を広げたい」、またお仕事をお持ちの方から「自分のもっている技術をいかしたい」との要望をいただいています。

当法人では、土日が基本的に休日となっているため、お仕事をお持ちの方にかかわっていただく機会が少ない状況です。11月からトライアルではじまった「ネクスト番外編」では、日頃できない理科等の実験を取り入れています。この関連で、技術等をいかしていただけないかと思っています。　（石川隆博）

キララ賞（かながわ若者生き生き大賞）贈呈式

12月３日新横浜オルタナティブ生活館にて第21回神奈川生活クラブ生協キララ賞贈呈式が行われ、当法人の事務局長石井利衣子がNPO法人アクションポート横浜の事務局長、高城芳之氏と共に受賞致しました。

「書店の店長として自らの経験に基に支援の必要としている一人一人に寄り添い、無理なく社会に溶け込めるよう心配りをされています。不登校や引きこもりだった自分の過去を分析し、人との関係性が社会参加することで少しずつ変わってきたという体験を通してもう一歩、アンガージュマンの事務局長を当事者の自分が引き受けることで支援される側と支援する側という構図を変えていけるということを、身を持って示したいとしています。あなたのモットーは「無理せず、自由に」は、後に続く方だけではなく、生きにくいと感じているすべての人へ向けたメッセージでもあります。あなたの生き方や活動に共感し、キララ賞を贈ります。」という表彰状の言葉に、受賞理由が表されています。

贈呈式では過去受賞団体の和太鼓「昇龍」の演奏に続いて、今回の受賞者から活動報告がされました。

石井は、不登校やひきこもりの経験から現在の活動に至るまでの経緯とはるかぜ書店や商店街での活動についてお話しました。中でも、はるかぜ書店での日常的な一コマ、多少お待たせしてもお客様が嫌な顔せずむしろお気遣い下さったりという、お客様と店員がお互い気持ちよくやり取りの出来る環境、上町ならではの雰囲気が伝わっていたように思います。私自身もはるかぜ書店に携わっていたので改めて考えさせられた一面でした。続いて、高城氏の活動報告、続・若者発見伝と題して過去受賞者、及び団体が過去から現在に至るまでを語り、式が終了しました。

受賞者は12/19に県知事を表敬訪問し、１月にも地元市長を表敬訪問する予定です。これを機に若者の活動に対する理解が深まればと思っております。　（石川藍）

お祝いの花束を抱える事務局長　石井と高城氏